

## 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

平塚市教育委員会

## 1 はじめに

平成29年4月に実施した「平成29年度全国学力・学習状況調査」の本市立学校の調査結果の概要をお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、児童生徒に関わる様々な立場の方々に関心をもっていただき、調査結果から見える成果や課題を共有しながら、学校・家庭・地域と連携し、一体となって平塚市の子どもたちを育てていきたいと考えております。

なお、本調査は、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部を測定したものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果を本市の児童生徒の学力や学習状況を把握する資料の一つであると捉え、児童生徒一人一人に応じた教育指導や学習状況の改善のために役立てていきたいと考えております。

市民の皆さまにおかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨を御理解いただくとともに、本市の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効に御活用いただきますようお願いいたします。

## 2 調査の概要

## ○調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

## ○調査実施日

平成29年4月18日（火）

## ○調査対象

小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

## ○調査内容

## (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

&lt;主として「知識」に関する問題（A）&gt;

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

&lt;主として「活用」に関する問題（B）&gt;

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

## (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

&lt;児童生徒に対する調査&gt;

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

&lt;学校に対する調査&gt;

- ・指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 3 教科に関する調査について

#### ◎教科別調査結果

<小学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語A	10.6問 / 15問	70%	11.0問	3.1
国語B	4.9問 / 9問	55%	5.0問	2.2
算数A	11.3問 / 15問	75%	12.0問	3.4
算数B	4.8問 / 11問	43%	5.0問	2.6

<中学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語A	24.0問 / 32問	75%	25.0問	5.9
国語B	6.4問 / 9問	71%	7.0問	2.3
数学A	22.2問 / 36問	62%	23.0問	8.8
数学B	6.8問 / 15問	45%	7.0問	3.3

<用語説明>

平均正答数：児童及び生徒の正答数の平均。( / の右側は総問題数)

平均正答率：児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。  
平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。

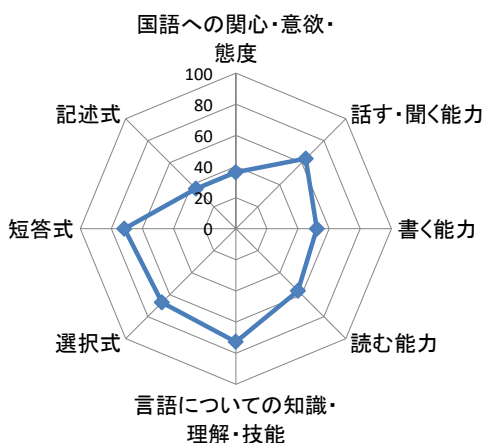
標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値が全て同じ)ことを意味する。

#### ◎各教科の結果の概要

〔グラフ(レーダーチャート)は各教科A・B問題をあわせて領域・観点・問題形式別に表したもの〕  
◇…多くの児童生徒ができていない内容      ◆…課題が見られる内容

#### 【小学校国語】

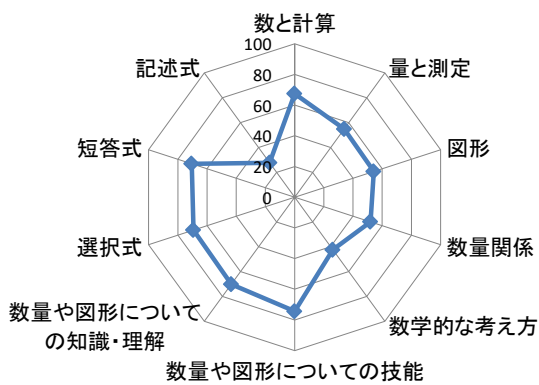
今回出題された学習内容に関して、本市では、知識・技能の定着、知識・技能を活用する力が共に全国をやや下回っている。領域別(観点別)に見ると、どれも全国の正答率をやや下回り、特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(「言語についての知識・理解・技能」)では下回っている。問題形式別に見ると、「選択式」では全国の正答率をやや下回り、「短答式」「記述式」では下回っている。特に、「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



- ◇ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。
- ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。
- ◆目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
- ◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。

### 【小学校算数】

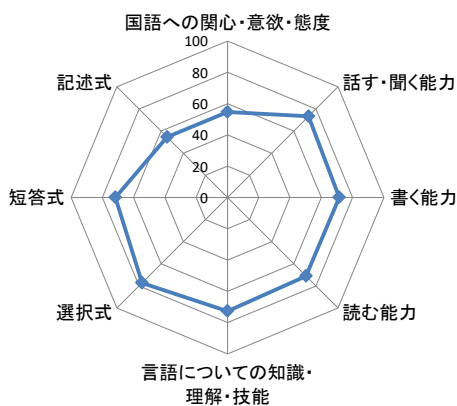
今回出題された学習内容に関して、本市では、知識・技能の定着、知識・技能を活用する力が共に全国をやや下回っている。特に、知識・技能を活用する力は、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。領域別に見ると、どの領域においても全国の正答率をやや下回っている。観点別に見ると、どの観点においても全国の正答率をやや下回っている。特に、「数学的な考え方」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。問題形式別に見ると、どの問題形式においても全国の正答率をやや下回っている。特に、「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



- ◇具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解する。
- ◇小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解する。
- ◆資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める。
- ◆仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する。

### 【中学校国語】

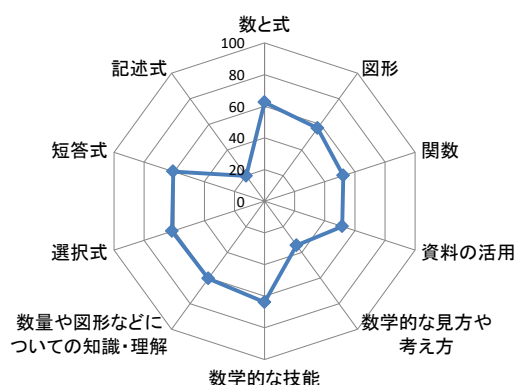
今回出題された学習内容に関して、本市では、知識・技能の定着、知識・技能を活用する力が共に全国をやや下回っている。領域別（観点別）に見ると、「話すこと・聞くこと」（「話す・聞く能力」）の正答率は全国と同程度であるが、「書くこと」（「書く能力」）「読むこと」（「読む能力」）「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（「言語についての知識・理解・技能」）は全国をやや下回っている。問題形式別に見ると、どの問題形式においても全国の正答率をやや下回っている。なお、無解答率については、全国と同程度である。



- ◇文脈に即して漢字を正しく読む。
- ◇目的に応じて資料を効果的に活用して話す。
- ◆文脈に即して漢字を正しく書く。
- ◆表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。

### 【中学校数学】

今回出題された学習内容に関して、本市では、知識・技能の定着、知識・技能を活用する力が共に全国をやや下回っている。特に、知識・技能を活用する力は、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。領域別に見ると、どの領域においても全国の正答率をやや下回っている。観点別に見ると、どの観点においても全国の正答率をやや下回っている。特に、「数学的な見方や考え方」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。問題形式別に見ると、どの問題形式においても全国の正答率をやや下回っている。特に、「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



- ◇ 平行移動した図形をかく。
- ◇ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る。
- ◆ 与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求める。
- ◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。

## 4 児童生徒質問紙調査について

### ＜生活習慣や学習環境等に関する調査結果＞（抜粋）

質問内容	小学校		中学校	
	平塚市立	全国公立	平塚市立	全国公立
朝食を毎日食べている。	94.2%	95.4%	90.7%	93.2%
普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする。	62.9%	55.7%	57.0%	49.1%
普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする。(ゲームをする時間は除く)	24.9%	20.5%	65.0%	50.4%
家の人と学校での出来事について話をしている。	77.2%	78.1%	72.5%	74.3%
家で学校の宿題をしている。	93.8%	96.9%	84.9%	89.5%
学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間が、2時間以上。	25.3%	27.1%	43.1%	35.4%
学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間	19.0%	11.3%	15.9%	13.2%

が、30分未満。				
土曜日や日曜日など学校が休みの日の1日当たりの勉強時間が、2時間以上。	21.9%	24.6%	40.3%	41.8%
土曜日や日曜日など学校が休みの日の1日当たりの勉強時間が、1時間未満。	53.0%	42.6%	38.0%	30.4%
読書は好きである。	70.2%	74.3%	60.5%	69.9%
学校の授業時間以外に、普段(月~日)、1日あたり10分以上、読書をする。	60.9%	63.3%	42.0%	51.4%
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。	57.3%	63.9%	51.3%	59.2%
今住んでいる地域の行事に参加している。	57.3%	62.6%	33.3%	42.1%
学校のきまり(規則)を守っている。	89.9%	92.6%	93.9%	95.2%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	94.4%	96.1%	91.0%	92.8%
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	94.7%	94.8%	93.8%	94.7%
自分には、よいところがあると思う。	74.0%	77.9%	69.1%	70.7%
将来の夢や目標を持っている。	84.4%	85.9%	69.3%	70.5%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.0%	92.5%	90.2%	91.9%

※数値には、「どちらかといえば」「時々」を含む。

### <教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関係>

※児童生徒質問紙の質問の回答状況と各教科の調査結果を比べ、相関関係(2つの項目の間の何らかの関係性)が見られたものを抜粋。(必ずしも因果関係を示したものではない。)

#### ◎次のような児童生徒に、正答率が高い傾向が見られる。

##### 【主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する取組状況、学習評価の在り方】

- ・友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができている。
- ・授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かしている。
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・小学校においては5年生までに、中学校においては1・2年生のときに受けた授業(以下、これまでに受けた授業)では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・これまでに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- ・これまでに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。
- ・これまでに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。
- ・これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。

- ・400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいとは思わない。
- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。

**【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等】**

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・学校のきまりを守っている。

**【保護者に対する調査関連】**

- ・家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。

**【学習に対する関心・意欲・態度（国語）】**

- ・国語の授業の内容はよく分かる。
- ・今回の国語の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- ・調査問題の解答時間は十分であった（国語A）。

**【学習に対する関心・意欲・態度（算数・数学）】**

- ・算数・数学の勉強は好きである。
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- ・算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- ・今回の算数の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- ・調査問題の解答時間は十分であった（算数A）。

**【学習状況（指導状況）】**

- ・これまでに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。

**【基本的生活習慣】**

- ・朝食を毎日食べている。

**【地域や社会、外国に対する興味・関心】**

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

※【 】は、「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」（平成29年9月文部科学省 国立教育政策研究所）による分類

## 5 今後に向けて

市教育委員会では、本市の児童生徒が確かな学力を身に付けていくため、本調査結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に提供しました。各学校では、本市全体の結果分析を踏まえ、各学校の調査結果の多面的な分析と検証を進め、自校の課題に応じた取組を今後の教育指導の中で実践していくことが何より重要であると考えます。市教育委員会として、各学校が、児童生徒一人一人に応じたき

めこまやかな指導の充実が図れるよう、各学校の状況に応じ、必要な指導や支援を行ってまいります。

なお、本市全体の調査結果から、基礎的・基本的な知識・技能について、より一層の定着が必要であることから、市教育委員会として、教員対象の各種研究会や学校訪問等を通じて、創意工夫のあるわかる授業、魅力ある授業づくりに向けたさらなる啓発と支援に努めてまいります。さらに、体験的な学習や問題解決的な学習を重視するとともに、各教科等にわたって言語活動を充実させ、豊かな感性と思考力、判断力、表現力等の育成を重視した指導方法の工夫・改善を学校に働きかけてまいります。

今回で10回目の調査となり、基本的な生活習慣や学習習慣の確立が学力の定着に大切であることを、あらためて読み取ることができました。特に家庭学習の大切さについて、PTA連絡協議会や地域教育力ネットワーク協議会等、あらゆる機会をとおして伝えていくことが必要であると考えております。児童生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。平塚市では、児童生徒の「生きる力」を育むため、地域に根ざした教育を進めてまいります。

また、平成29年（2017年）3月に改訂された新しい学習指導要領は、小学校では平成32年（2020年）4月、中学校では平成33年（2021年）4月から全面实施されます。今回の改訂の基本的な考え方はもちろんのこと、具体的な教育内容の改善事項等が教員にしっかりと周知され、円滑に実施できるよう、管理職の研究会や各種担当者会において、必要な研修を行います。

今後とも、市民の皆さまの学校教育・家庭教育への御理解と御支援・御協力を引き続き、よろしくお願いいたします。